

資料No.4

令和6年10月1日 川越市農業振興審議会

川越市農業振興計画改定版に基づく 主な事業の実施状況について

産業観光部 農政課

主な事業の実施状況について 目次

1 主穀作振興	1頁	13 農地の保全と有効活用 その他の取組	14頁
2 鳥獣被害防止対策事業	2頁	14 グリーンツーリズム整備推進事業	16頁
3 農産物直売所・地場農産物消費促進事業	3頁	15 川越市農業振興計画改定版の指標	17頁
4 食料の安定供給の確保 その他の取組	4頁		
5 川越産農産物ブランド化事業	6頁		
6 サツマイモ振興	7頁		
7 武蔵野の落ち葉堆肥農法	8頁		
8 環境保全型農業の推進	9頁		
9 新規就農者育成総合対策（新規就農者支援）	10頁		
10 地域計画の策定	11頁		
11 多様な担い手の育成・確保の推進 その他の取組	12頁		
12 多面的機能支払交付金事業	13頁		

1 主穀作振興

1 食料の安定供給の確保

(1) 安定した農業経営の確立

米価の安定と食料自給率の維持向上を図る国の経営所得安定対策の推進、米粉用米や麦等の転作作物、優良な主穀種子の生産、農業集団化へ助成等を行う。川越市の農地の約2/3を占める水田を将来に渡って維持し、水田農業の振興を図る。

1 経営所得安定対策の推進

経営所得安定対策の実施団体となる川越地域農業再生協議会の事務局として、申請書の取りまとめや現地調査、生産の目安の配分などを行う。

- ・畑作物の直接支払交付金(ゲタ)
- ・米・畑作物の収入減少影響緩和交付金(ナラシ)
- ・水田活用の直接支払交付金

2 水田麦等作付け奨励補助金

水田において戦略作物(麦、大豆、飼料作物、米粉用米等)を作付した場合に、面積に応じて交付

3 水田農業集団化促進事業費補助金

集落集団営農組織の編成又は育成に対し補助する事業種子、資材、肥料、薬剤等への補助(事業費の1/3以内)

4 主要農作物採種事業補助金

採種を行う農業者の組織の強化又は必要な機械、施設等の整備及び農薬、肥料等に対する補助(事業費の1/2以内)

※作付面積:彩のきずな:360a(令和3年)、360a(令和4年)、390a(令和5年)

●川越カントリーエレベーター集荷価格(円) ●過去3年間の事業費(円)
(コシヒカリ玄米60キロ当たり)

令和4年	11,000	令和3年度支出額	5,670,000
令和5年	12,000	令和4年度支出額	8,814,000
令和6年	16,600	令和5年度支出額	7,452,000

【課題】

・スマート農業、農地の集積、ほ場整備など生産性向上を図る総合的な取組が必要

【令和6年度取組予定】 予算額 7,050千円

1 農業再生協議会

・生産の目安 6,300t (面積換算1,283ha)

2 水田麦等作付け奨励補助事業

・麦類、大豆 8,700円(10a当たり)

・飼料作物 5,800円(10a当たり)

・米粉用米、飼料用米 6,960円(10a当たり)

※二毛作の場合 4,350円(10a当たり)

2 鳥獣被害防止対策事業

1 食料の安定供給の確保

(1) 安定した農業経営の確立

野生鳥獣による農産物の被害防止対策を総合的に推進するため、平成27年5月に市と関係機関(JAいるま野ほか)で構成する「川越市鳥獣被害防止対策協議会」を設立している。協議会は、アライグマ捕獲従事者養成研修会や電気柵設置講習会を開催するとともに、市の被害防止計画で対象鳥獣をアライグマ・ハクビシン・タヌキとして捕獲を支援し、農作物被害の減少を図っている。

協議会の事業

川越市鳥獣被害防止計画対象鳥獣の捕獲の支援
(アライグマ・ハクビシン・タヌキ)

アライグマ捕獲従事者養成研修会の開催

電気柵の正しい使用方法の普及活動
(講習会の開催など)

捕獲従事者養成研修会



- ・アライグマは雑食性で何でも食べるが、特に甘いものを好むためブドウやトウモロコシ、スイカをはじめとする糖度の高い農産物の被害が多い。
- ・市内ではアライグマの捕獲が最も多く、古谷地区が最多である。
- ・主には箱ワナ設置と電気柵設置で対応しているのが現状。

●捕獲頭数の推移

	アライグマ	ハクビシン	タヌキ	合計
令和3年度	189	23	31	243
令和4年度	250	22	23	295
令和5年度	244	26	38	308

●過去3年間の事業費(円)

令和3年度支出額	5,366,806
令和4年度支出額	5,092,825
令和5年度支出額	4,088,744

●新規捕獲従事者数の推移

令和4年度	74人
令和5年度	51人

※令和5年度末捕獲従事者数 530人

【課題】

- ・捕獲頭数の高止まりが続き、今後も継続的取組が必要である。
- ・捕獲従事者数に対し、箱ワナ数が足りていない状況である。また、箱ワナの保管場所が足りない状況であり、保管場所の確保が必要である。

【令和6年度取組予定】 予算額4,400千円

川越市鳥獣被害防止計画対象鳥獣の捕獲の支援 : 随時
アライグマ捕獲従事者養成研修会の開催 : 年3回
電気柵設置講習会の開催 : 年1回

3 農産物直売所・地場農産物消費促進事業

1 食料の安定供給の確保

(2) 地産地消の推進

庭先販売所を含む農産物直売所の設置やPRなどの運営支援を行うとともに、スーパーマーケットにおける川越産農産物の提供促進などにより、川越産農産物の地域内での流通を図る。

1 庭先販売・直売所マップ「川越プチマルシェ」による農産物PR

令和4年度に庭先販売所、農産物直売所の情報を掲載したマップの更新を行い、新たに「おいしい川越農産物提供店」の掲載を追加した。市民センター、ウエスタ川越、観光案内所等、市民の方以外も手にとれるよう設置し、川越産農産物のPRを図った。

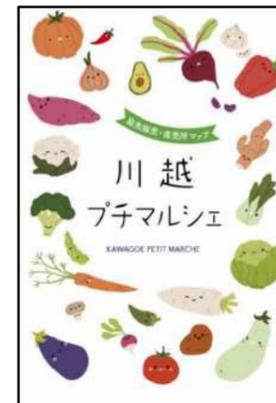
※「おいしい川越農産物提供店」とは・・・川越産農産物の魅力を広くPRする市内飲食店等

2 地場農産物消費拡大事業

市内農業者団体が川越産農産物のPRを図り、地場農産物の消費拡大を推進するため、販促物の作成に対して、補助を実施する。

3 学校給食広報誌関係

- ・献立表(2回): 献立に合わせた川越産農産物のトピックスを掲載。
- ・給食だより(1回): プチマルシェの二次元コードを掲載。



庭先販売・直売所マップ
～川越プチマルシェ (表紙)

4 グリーンツーリズム拠点施設における伝統野菜の収穫体験

【令和5年度実績】

- ・西町大根収穫・調理体験(参加人数9名)
- ・里芋収穫体験(参加人数289名)
- ・さつまいも栽培体験(参加人数12名)
- ・さつまいも収穫体験(参加人数1,205名)

【課題】

- ・川越産農産物を提供する場所について、より周知を図り、流通を拡大させる必要がある。
- ・参加人数が少ない伝統野菜の収穫体験について、より周知を図る必要がある。

地場農産物消費拡大事業	事業費(円)	実施主体	事業内容
令和3年度	175,542	赤一商店	テント・腰巻
令和4年度	156,200	川越市葡萄生産組合	のぼり旗
令和5年度	①198,000 ②246,400	①小江戸農園オリーブ組合 ②川越いも研究会	①販売促進用ラベルの作成費 ②いも掘り観光案内マップ

【令和6年度取組予定】 予算額 314千円

○「川越プチマルシェ」作業業務委託

庭先販売所、農産物直売所等の情報を掲載した「川越プチマルシェ」の内容更新(掲載農家の増加を含む)を行い、川越産農産物を市内外へPRする。

○学校給食広報誌関係

- ・献立表: 献立に合わせた川越産農産物のトピックスを掲載予定。
- ・給食だより: プチマルシェ・いも掘り観光案内マップの二次元コードを掲載予定。

4 食料の安定供給の確保 その他の取組 1/2

1 食料の安定供給の確保

(1)安定した農業経営の確立

認定農業者等臨時経営支援金

・令和5年度支出額 10,854,086円

認定農業者等臨時経営支援金(令和5年度実施)

・長引く国際情勢の緊迫化やコロナ禍における肥料費等の高騰の影響を受けた本市の中核的な担い手である認定農業者等(認定農業者、認定新規就農者、集落営農組織、基本構想水準到達者)に対して、1経営体あたり50,000円を交付した。

※申請件数:214件
 交付割合:約95.5%
 交付金額:10,700,000円

(1)安定した農業経営の確立

畜産振興

・令和3年度支出額 1,079,699円
 ・令和4年度支出額 1,206,394円
 ・令和5年度支出額 1,091,493円
 ・令和6年度予算額 1,272,000円

・家畜伝染病予防法に基づき実施した牛、豚の検査や予防注射及び畜舎消毒に要する経費に対し助成。
 ・家畜の改良を推進し、優良種畜生産並びに能力の向上を図るため、人工受精用精液、優良牛・豚の導入に対し助成。
 ・畜産経営の安定を図るため、飼料作物の種子購入費を助成。

(1)安定した農業経営の確立

農業制度資金利子補給

・令和3年度支出額 506,434円
 ・令和4年度支出額 437,410円
 ・令和5年度支出額 373,904円
 ・令和6年度予算額 668,000円

・農業近代化資金利子補給
 農業経営の近代化を図ることを目的とした農業機械等の導入及び施設整備に係る借入に対して利子の一部を助成。
 ・農業経営基盤強化資金利子助成
 農業経営の規模拡大やその他の経営展開を図ることを目的とした農地取得等に係る借入金に対して利子の一部を助成。

4 食料の安定供給の確保 その他の取組 2/2

1 食料の安定供給の確保

(1)安定した農業経営の確立

スマート農業導入促進

①スマート農業の推進を図るため、スマート農機の購入等に関して助成できるよう、令和5年度に補助事業の要綱を改正した。

【スマート農業に係る補助内容】

- ・スマート農業技術導入事業(購入)(実施主体:農業経営体3者以上で組織された集団又は法人):実績なし
- ・スマート農業技術導入事業(作業委託)(実施主体:農業経営体3者以上で組織された集団、法人又は個人の農業経営体):実績1団体(ドローンによる農薬散布作業委託費)

②スマート農業講習会(令和6年1月24日、グリーンツーリズム拠点施設にて開催。25名出席)
スマート農業の入門的な講習会を行う事により、農業従事者のスマート農業への関心を高め、農業従事者に研修の場(講習会及びアシストスーツの実演体験会)を提供した。

(3)農産物の安全・安心の確保

食品表示法等に係る事業

・予算措置なし

食品表示法やJAS法に基づき、農業者や小売業者等への指導を行っている。

- ・令和4年度指導回数:3回
- ・令和5年度指導回数:1回

(4)食品流通の支援

地方卸売市場を通じた生鮮食料品流通支援

・予算措置なし

埼玉川越総合地方卸売市場を通じ、市民への生鮮食料品の安定供給に寄与した。

(1)市場取扱状況(令和5年度)

	取扱数量(t)	取扱高(千円)
青果物	14,482	3,279,226
水産物	1,544	1,666,404
計	16,026	4,945,630

(2)一般消費者向けのイベント

	来場者数(人)
お客様感謝市 (毎週土曜開催)	96,000
年末大開放市 (年末5日間)	18,000

(3)その他

- ・小学生社会科見学受入
27校2,307人
- ・生鮮漁港川越
生鮮産品を取扱う小売り
施設が場内に整備されている。

5 川越産農産物ブランド化事業

2 農産物のブランド化の推進

(1) 川越産農産物のブランド構築

川越産農産物ブランド化に向けて、平成28年度に設立され、市内農業者、商業者等で構成する川越産農産物ブランド化連絡会との協働でさまざまな取組を実施する。

【主な取組】

- 平成30年度に作成した川越産農産物のロゴマークの普及を図る。

令和4年度：ロゴシール：724,000枚、のぼり旗：24枚

令和5年度：ロゴシール：822,000枚、のぼり旗：38枚

- くらしをいろどるFarmer's Market開催

令和4年度：来場者数1万5,000人（令和4年12月4日ウエスタ川越）

令和5年度：来場者数1万8,000人（令和5年12月3日ウエスタ川越）

- 伝統的農産物の振興

伝統的な川越いもである「紅赤」や川越発で大正末期から昭和30年代にかけて全国的に有名であった「西町大根」をPRするため、西町大根や紅赤など、かつて川越地方で栽培された伝統野菜の収穫体験等PRを行った。

【農産物ブランド化 目的】

川越産農産物の付加価値や知名度の向上を図ることによって、川越の農業振興と農業全体の活性化を目指すこと。

- ・ロゴマークの普及、啓発
- ・異業種交流会
- ・イベント等による



【課題】

- ・飲食店での食材や加工品の原材料として川越産農産物の利用拡大
- ・川越産農産物の市外への発信
- ・さまざまな取組を川越産農産物の付加価値の向上につなげる

●過去3年間の事業費(円)

令和3年度支出額	1,199,665
令和4年度支出額	1,500,000
令和5年度支出額	1,100,000

【令和6年度取組予定】 予算額 1,550千円

- ・おいしい川越ロゴグッズの配布
- ・異業種交流会の開催
- ・くらしをいろどるFarmer's Marketの開催協力
- ・市外直売イベントへの参加

6 サツマイモ振興

2 川越産農産物のブランド化の推進

(1) 川越産農産物のブランド構築

市内農業者で構成する川越いも研究会や商業者、飲食業者で構成する川越サツマイモ商品振興会などとの協働により、歴史ある川越産のサツマイモの生産振興とPRを行う。

【主な取組】

- 川越いも研究会でのPRグッズの作製協力
いもほり・直売マップ作製(令和5年度に内容更新。イベント情報を新規掲載)
- 令和元年12月1日新たにオープンしたサツマイモまんが資料館について、PR等のサポートを実施。
- 毎年10月13日に開催されるいも供養に参加
- 令和2年より開催しているいも神事「献芋式」での協力
- グリーンツーリズム拠点施設での体験実施によるPR

【課題】

- 川越の伝統野菜「紅赤」について、一定の生産量の確保を図っていく必要性
- 歴史ある川越観光の「いもほり」の保存
- 川越産サツマイモの生産量拡大と市内での流通促進



市民等に人気のある芋ほり体験



サツマイモまんが資料館での展示

●過去3年間の事業費(円)

令和3年度支出額	0
令和4年度支出額	0
令和5年度支出額	246,400



いも神事で紅赤PRとしていも茶を配布

【令和6年度取組予定】 予算額 なし

- いも供養やいも神事「献芋式」への参加・協力によるPR。
- サツマイモの域内流通調査。

7 武蔵野の落ち葉堆肥農法

2 川越産農産物のブランド化の推進

(1) 川越産農産物のブランド構築

武蔵野台地に位置する川越市、所沢市、ふじみ野市、三芳町は火山灰土に厚く覆われ作物が育ちにくい土地だったが、江戸時代から多くの木を植えて平地林(ヤマ)として育て、木々の落ち葉を掃き集め、堆肥として畑に入れて土壌改良を行ってきた。こうして300年以上に渡り続けられてきた伝統農法を「落ち葉堆肥農法」とよぶ。この「落ち葉堆肥農法」は今も受け継がれ、それにより平地林は各市町全域にその面影を多く残し、育成・管理されて景観や生物の多様性を育むシステムが作られている。

この「落ち葉堆肥農法」を、将来に受け継がれるべき伝統的な農業システムであるとして、武蔵野の落ち葉堆肥農法世界農業遺産推進協議会(川越市、所沢市、ふじみ野市、三芳町、いるま野農業協同組合、埼玉県川越農林振興センターを構成員とする協議会)は、世界農業遺産に認定申請し、令和5年7月5日に世界農業遺産として認定を受けた。

認定後の取り組み(令和5年度)

【協議会活動状況】①令和5年7月5日に世界農業遺産に認定されたことに伴い、7月10日に知事訪問、②12月16日に武蔵野の落ち葉堆肥農法世界農業遺産認定記念式典及びレセプションを開催、③世界農業遺産「武蔵野の落ち葉堆肥農法」ロゴマークを新たに策定し、記念式典時に披露、④世界農業遺産認定に伴うのぼり旗を作製し、各実践農業者に配布、⑤例年行っている落ち葉堆肥農法に係る補助金(上限5,000円)交付、⑥11月14日に県庁オープンデー展示、⑦11月25日、26日に2023彩の国食と農林業ドリームフェスタ出展、⑧2月7日に農と食の展示・商談会2024出展

【市】①市本庁舎横断幕設置、②市広報紙にて認定PR(R5年10月号)③農業ふれあいセンターまつりでPRブース設置、④ナラ枯れ防除対策支援補助金要綱制定(R6年4月1日施行)

【課題】

世界農業遺産に認定されたことにより、今後将来に渡り受け継がれるべき農法であることのPRがより一層必要。農法の継続について武蔵野の落ち葉堆肥世界農業遺産推進協議会及び市としての取組についての検討が必要。

●過去3年間の事業費(円)

令和3年度支出額	200,000
令和4年度支出額	400,000
令和5年度支出額	686,785



落ち葉掃きの様子

【令和6年度取組予定】

予算額

・三富地域農業振興協議会負担金	200,000円
・武蔵野の落ち葉堆肥世界農業遺産推進協議会負担金	400,000円
・ナラ枯れ対策関連予算	5,000,000円

8 環境保全型農業の推進

2 農産物のブランド化の推進

(3)環境と調和のとれた食料システムの促進



環境保全型農業「フェロモントラップ」

●環境保全型農業とは、「農業の持つ物質循環機能を生かし、生産性との調和などに留意しつつ、土づくり等を通じて化学肥料、農薬の使用等による環境負荷の軽減に配慮した持続的な農業のこと」である。

環境保全型農業を行うにあたり、必要な機械、施設及び資材を整備し、農業者団体に対し、補助金(事業費の1/2以内)を交付する。

①下赤坂畑灌組合(フェロモントラップ) 36,630円(事業費73,260円)

畑地かんがい施設の実施により、野菜生産技術の改善と生産体制の整備及び経営の安定と地域農業の発展を目的としている団体。

②いるま野農業協同組合(生分解性マルチフィルム)1,003,074円(事業費4,162,240円)

③南部機械利用組合(肥料散布機) 210,210円(事業費420,420円)

福原地区にて緑肥を活用した農業に取り組み、地力増進、化学肥料低減による環境保全型農業を取組むことを目的としている団体。

●砂塵防止用小麦関係

砂塵防止用及び緑肥として希望者に無料配布を行った(70者。1,531kg)。

【課題】

環境保全型農業の実現のためには、化学肥料や化学農薬の使用量の削減が必要である。しかし、化学農薬等を使用しないことに伴い、雑草が増えるため除草に時間がかかることや周りの農家への配慮等が必要である。また、手間の費用を価格に反映していくことが必要である。

【令和6年度取組予定】

予算額 1,851,000円

・環境保全型農業推進事業費補助金 1,721,000円

・砂塵防止用小麦関係 130,000円

9 新規就農者育成総合対策(新規就農者支援)

3 多様な担い手の育成・確保の推進

(1) 多様な担い手の支援

農業経営を開始して間がない新規就農者の経営安定に向けて支援を行っている。令和5年度は3名の就農者への補助を行っている。

【農業次世代人材投資事業】 ※令和3年度採択者まで

次世代を担う農業者となることを目指し、独立・自営就農する認定新規就農者に対し、資金を交付する。

交付対象者：農業経営を始めて間もない青年就農者等(独立・自営就農時49歳以下、その他要件あり)

交付額：経営開始1～3年目150万円(年)
経営開始4～5年目120万円(年)※1

※1 令和2年度採択までは最大150万円×5年間

【新規就農者育成総合対策】 ※令和4年度～

経営発展、資金面での支援、またサポート体制を構築し、新規就農者を支援する。

・経営開始資金の補助

対象者：農業経営を始めて間もない青年就農者等(独立・自営就農時49歳以下、その他要件あり)

支援額：12.5万円/月(150万円/年)×最長3年間

【川越市の状況】

・令和3年度 農業次世代人材投資事業採択者 1名 (露地果樹(ブドウ))

・令和4年度 新規就農者育成総合対策※採択者 0名
いるま地域明日の農業担い手育成塾入塾者 2名 (露地野菜)

・令和5年度 新規就農者育成総合対策※採択者 0名
いるま地域明日の農業担い手育成塾入塾者 1名 (露地野菜)

・令和6年度 新規就農者育成総合対策※採択者 2名
いるま地域明日の農業担い手育成塾入塾者 0名 (露地野菜)

※令和4年度以降、新規就農者の経営開始にかかる補助事業は、新規就農者育成総合対策となりました。

【課題】

- ・就農者の営農が成り立つ規模の農地の確保や実現可能な営農計画に向けたサポート体制の確立
- ・地域とのコミュニケーション、調和

●過去3年間の事業費(円)

令和3年度支出額	4,500,000
令和4年度支出額	3,750,000
令和5年度支出額	4,500,000

【令和6年度取組予定】 予算額 10,500千円

- ・新規就農相談会の実施
- ・いるま地域明日の農業担い手育成塾への入塾等の支援
- ・新規就農者への経営開始資金の交付及びサポート

10 地域計画の策定

3 多様な担い手の育成・確保の推進

(2) 地域計画の策定と取組促進

【人・農地プラン】

農業における高齢化や後継者不足、耕作放棄地の増加など、人と農地の問題を解決するための「人・農地プラン」を市内の旧農協支店単位全12地域で策定しており、さらに令和3年度までに、より実効性のある計画として、人・農地プランの実質化※が全12地域で完了している。



【地域計画】

地域計画は令和5年4月に施行された農業経営基盤強化促進法の一部改正に伴い人・農地プランを地域計画として法定化したもの。これまでの人・農地プランに加え、地域での話し合いにより、将来、だれがどの農地を耕作していくのかといった、より具体的な地図(目標地図)を作成することが必要で、令和7年3月までに全地域で策定予定となっている。

○地域協議会の設置

- ・地域計画は、毎年度進捗管理を行い、必要に応じて更新等を行う必要があるため、協議会を設置する
- ・全12地域で協議会を設置し、地域計画について話し合いを行う
- ・地域全体からまんべんなく招集し、地域全体の意見が反映できるようにする

※協議終了地域: R5年度⇒4地域
R6年度⇒5地域(R6.7末)

○協議会での検討事項

- ・地域の課題
- ・地域の将来方針
- ・目標地図の検討 等

※実質化した人・農地プランとは「アンケートの実施」「現況把握」「今後地域の中心となる経営体(中心経営体)への農地の集約化に関する将来方針の作成」の3つの工程を経たもの。

【課題】

- ・各地域協議会の立上げに向けて、農業者等への周知と制度説明
- ・協議会での話し合いを十分に行った上での計画策定が必要
- ・計画策定後の地域での実際の取組が重要
- ・多様な担い手によって、地域の農業を支えていく取組となるよう協議を進める



●過去3年間の事業費(円)

令和3年度支出額	188,432
令和4年度支出額	0
令和5年度支出額	52,594

【令和6年度取組予定】 予算額 137千円

- ・各地域協議会の設置 (8地域)
- ・目標地図の作成 (8地域)
- ・地域計画素案作成 (8地域)
- ・地域計画公告 (12地域)

11 多様な担い手の育成・確保の推進 その他の取組

3 多様な担い手の育成・確保の推進

(1)多様な担い手の支援

農業研究団体連合会組織運営事業

・令和3年度支出額	97,273円
・令和4年度支出額	102,024円
・令和5年度支出額	452,263円
・令和6年度予算額	400,000円

青年農業者組織活動支援事業

・令和3年度支出額	990円
・令和4年度支出額	79,990円
・令和5年度支出額	97,000円
・令和6年度予算額	87,000円

(1)川越市農業研究団体連合会

組織活動を通じた農業者の資質向上を図るため、鴨田体験農園組合、川越市葡萄生産組合、川越いも研究会、芳野野菜栽培者協議会、農事組合法人沼端で組織する川越市農業研究団体連合会の運営を支援している。

(2)青年農業者組織活動支援事業

青年農業者間の交流及び農業技術・経営の向上の為に必要な組織活動を通じ、将来の担い手となる青年農業者の育成を図るために支援を行う。

・青年農業者組織：川越市4Hクラブ(18～30歳の農業者、16名)

(2)農地中間管理事業の取組促進

農地中間管理

・令和4年度支出額	1,530,000円
・令和5年度支出額	10,074円
・令和6年度予算額	11,986,000円

名細、山田、南古谷、芳野地区で合計2.99ha(再転貸含む)の農地について農地中間管理機構が借受け、地域の担い手・地域農家等に転貸した。

令和6年度については、令和5年度から取り組んでいる古谷本郷上地区について、地域として農地中間管理機構を介した農地の貸借を進めており、今年度中に事業完了予定(面積:30.38ha)

12 多面的機能支払交付金事業

4 農地の保全と有効活用

(4) 農の多面的機能と環境の保全

農業・農村の有する多面的機能の維持・発揮を図るための地域の活動への支援を行い、地域資源の適切な保全管理を推進する。また、これにより、農業・農村の有する多面的機能が今後とも適切に維持・発揮されるとともに、担い手への農地集積の後押しにつながる。具体的には、水路の草刈りや泥上げ等、農村地域の共同活動を支援する事業となる。

○市内で活動する11組織

組織名称	活動開始年度	活動人数		
		農業者	農業者以外	合計
伊佐沼周辺田園環境保全組合	19	54	103	157
山田田園環境保全推進グループ	19	99	30	129
古谷本郷地区農地・水・環境美化サークル	20	53	57	110
大仙波農地保全組合	28	42	0	42
小堤地区農地保全環境組合	28	10	9	19
小仙波周辺農地保全組合	28	10	1	11
下小坂平塚田園環境保全維持管理組合	28	17	19	36
南田島農地保全組合	29	43	0	43
野戸池水系倉ヶ谷戸堰管理組合	30	40	7	47
石田本郷農地保全組合	30	21	21	42
芳野・古谷・南古谷広域協定運営委員会	30	631	4	635



水路のり面の保全の様子



水路の草取りの様子

●過去3年間の事業費(円)

令和3年度支出額	42,599,127
令和4年度支出額	41,379,675
令和5年度支出額	41,129,745

【課題】

- ・農地の維持等に向けた取組は、農業者だけでなく、地域全体で取り組んでいく必要がある。
- ・農地集積、集約と合わせて取り組んでいく必要がある。

【令和6年度取組予定】

- 予算額 43,495,824円
- ・事業に関する相談対応
- ・交付金の交付事務

13 農地の保全と有効活用 その他の取組 1/2

4 農地の保全と有効活用

(1) 農業基盤整備

土地改良事業補助金

・令和3年度支出額	6,670,000円
・令和4年度支出額	7,693,000円
・令和5年度支出額	8,649,000円
・令和6年度予算額	10,000,000円

土地改良区や水利組合等が行う、かんがい排水施設や機械揚水機等の新設及び修繕に対して、予算の範囲内で交付する。

- ・令和4年度: 8件
- ・令和5年度: 7件

(1) 農業基盤整備

埼玉型ほ場整備事業

令和3年度支出額	31,207,500円
令和4年度支出額	5,581,250円

10a区画に整備されている地域を対象に、既存の道水路整備と畦畔除去により、1区画を30a程度に整備する事業で、通常ほ場整備と比較して、低コストかつ短期間で整備することができる。市内では、令和元年度をもって下小坂・平塚地区の整備が完了し、令和4年度に久下戸地区の整備が完了した。また、次期整備に向け地域への説明を行っている。

(1) 農業基盤整備

農業水利施設のストックマネジメント

農業生産基盤の長寿命化を促進する、効果的な支援を行うための検討を行う。水利組合へのアンケート調査を基にストックマネジメントの検討を行うこととし、令和5年度に市内の水利組合に対し農業水利施設の現況調査を実施した。令和6年度も現況調査を実施し、農業水利施設台帳を作成する。

13 農地の保全と有効活用 その他の取組 2/2

4 農地の保全と有効活用

<p>(2)農業振興地域の農地保全</p> <p>農業振興地域整備計画の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和3年度支出額 412,500円 ・令和4年度支出額 18,989円 ・令和5年度支出額 — ・令和6年度予算額 332,200円 	<p>長期的に農業振興を図るべき地域の農地として、農業振興地域内農用地区域(青地)の農地保全を図っていく。</p> <p>【農用地区域面積】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和4年度末:2,382ha ・令和5年度末:2,380ha
<p>(3)市街化区域内農地の保全</p> <p>都市農地の貸借の円滑化事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・予算なし 	<p>生産緑地地区等の市街化区域内農地を保全するため、農地所有者と借り手である担い手との貸し借りの手続支援を行うしくみができている。</p>
<p>(5)生活環境改善と水質保全</p> <p>農業集落排水処理施設の維持管理</p>	<p>農業集落における生活環境改善及び農業用排水の水質保全を図るため、農業集落排水処理施設の維持管理を行っている。</p>
<p>(5)生活環境改善と水質保全</p> <p>地方公営企業法の適用</p>	<p>資産を含む経営状況を的確に把握し、経営基盤の強化と財政マネジメントの向上に取り組むため令和7年4月より地方公営企業法を適用して、公営企業会計へ移行する予定。</p>

14 グリーンツーリズム整備推進事業

5 農業とのふれあいの推進

(2) グリーンツーリズムの推進

平成28年1月に策定された「川越市まち・ひと・しごと創生総合戦略」に位置付けられたプロジェクト。農業ふれあいセンターを中心に、伊佐沼や田園など周辺の自然的景観や農業とのふれあいをコンセプトとしたグリーンツーリズムを推進する。農業ふれあいセンターの改修整備、バーベキュー施設の整備、農園の整備、農産物直売所、キャンプ等の整備。

【主な取組内容】

○令和元年度

- ・鴨田ふれあい農園拡張整備工事

農園面積:16,807㎡→22,552㎡(令和2年3月リニューアルオープン)

- ・蔵inガルテン川越グリーンツーリズム推進協議会設立

市内農業者、宿泊業者、飲食業者等で構成し、体験、食事、宿泊を柱とする川越のグリーンツーリズムを推進する。

○令和2年度

- ・駐車場整備
- ・伊佐沼農産物直売所改修工事

○令和3年度

- ・農業ふれあいセンター改修整備工事(バーベキュー施設含む)

○令和4年度

- ・農業ふれあいセンター リニューアルオープン(令和4年11月23日)
- ・農業ふれあいセンター外トイレ改築工事

○令和5年度

- ・キャンプスペース用地取得
- ・キャンプスペース整備設計

○農業体験参加者数

年度	参加者数
29	1,628
30	1,846
1	1,626
2	1,630
3	4,422
4	5,188
5	5,733

【課題】

- ・集客が伴う魅力のある運営を行う必要がある。
- ・グリーンツーリズムの拠点施設として市内の農業に関する資源のPRを行っていく必要がある。
- ・令和8年度のキャンプスペースのオープンに向け、整備を進める必要がある。

●過去3年間の事業費(円)

令和3年度支出額	555,188,542
令和4年度支出額	136,316,722
令和5年度支出額	227,286,038

【令和6年度取組予定】

予算額 91,168千円

- ・グリーンツーリズム拠点施設管理運営業務委託の進捗状況管理
- ・蔵inガルテン川越グリーンツーリズム推進協議会の運営
- ・キャンプスペースの整備

15 川越市農業振興計画改定版の指標 1/2

(1) 毎年度把握できる指標

	指標名称	計画策定時	現状	目標	調査方法
1	農業産出額（億円）	70.2 (2020年)	64.6 (2022年)	100 (2027年)	農林水産省市町村 別農業産出額
2	市（農業）ホームページアクセス数（件）	41,217 (2021年度)	78,509 (2023年度)	50,000 (2027年度)	農政課調べ
3	特別栽培農産物に認定された作物数（件）	12 (2021年度)	17 (2023年度)	30 (2027年度)	農政課調べ
4	農産物直売所の年間販売額（億円）	7.8 (2021年度)	8.0 (2023年度)	10 (2027年度)	農政課調べ
5	おいしい川越農産物提供店認定店舗数（店舗）	14 (2021年度)	21 (2023年度)	35 (2027年度)	産業振興課調べ
6	いるま地域明日の農業担い手育成塾入塾生（5年間累計数）（人）	2 (2021年度)	5 (2023年度)	10 (2027年度)	農政課調べ
7	担い手への農地の集積率（％）	16.3 (2021年度)	17.8 (2023年度)	42 (2027年度)	農政課調べ
8	多面的機能を発揮する共同活動の田における実施面積割合（カバー率）（％）	55 (2021年度)	55 (2023年度)	60 (2027年度)	農政課調べ
9	農業体験参加者数（人）	4,422 (2021年度)	5,733 (2023年度)	7,000 (2027年度)	農政課調べ

15 川越市農業振興計画改定版の指標 2/2

(2) 3から5年に1回把握できる指標

	指標名称	計画策定時	現状	目標	調査方法
1	農産物販売額1,000万円以上の経営体数（経営体）	103 (2020年)	103 (2020年)	120 (2027年)	農林業センサス
2	有機農業に取り組んでいる経営体作付面積（a）	5,876 (2020年)	5,876 (2020年)	6,000 (2027年)	農林業センサス
3	サツマイモ栽培経営体数（経営体）	36 (2020年)	36 (2020年)	40 (2027年)	農林業センサス
4	1経営体当たりの経営耕地面積（a）	159 (2020年)	159 (2020年)	185 (2027年)	農林業センサス
5	農業を身近に感じる方の割合（%）	61.4 (2021年)	61.4 (2021年)	70.0 (2027年)	市民意識調査

※ 計画の進行管理にあたり参考とする統計値

	統計値名称	計画策定時	現状	—	調査方法
1	学校給食における地場産農産物使用割合（%）	24.0 (2021年度)	25.2 (2023年度)	—	学校給食課調べ
2	耕地面積（ha）	3,220 (2021年度)	3,200 (2023年度)	—	面積調査
3	多面的機能支払交付金の地域活動参加人数	770 (2021年度)	635 (2022年度)	—	農政課調べ
4	市外からの農業体験参加者数	658 (2021年度)	745 (2023年度)	—	農政課調べ